

---

# 早期体験実習を終えて

---

## 早期体験実習を終えて

歯学科2年 森 建 輔

私たちはコロニーにいがた白岩の里で実習を行いました。ここで知的障害者がどのように暮らしているか、また知的障害者の現状を学びました。

私はこれまで障害を持った方と関わったことがなかったけれども、今回の実習で知らなかったことを知ることができたり、そこで暮らす人たちの様子を見学することでいろいろなことを感じました。

私の知識の中では、障害は身体障害のように目に見えているものと思っていましたが、精神面の障害をもつ人もいました。スタッフの方はたくさん言葉がけをしたり、コミュニケーションをとるといった形で接し、返答が来なくても、違う形で表情や行動でコミュニケーションをとっており、学び、実践していかないとできないことだと思いました。

家族と離れ生活しているので、家族と一緒にいられない寂しさや不安があると思うが、しっかりと作業や生活をしており、素晴らしいと思いました。風呂での介助、食事介助など、さまざまな介助を必要とする人もいますが、スタッフの方がうまく行うことで安心した暮らしができていますのだと思います。また、臨機応変な行動、適切な援助、障害者を理解したうえでの支援、コミュニケーションのとり方など、自分には真似できないようなもので、尊敬に値するものでした。スタッフの方は、何をするにも笑顔で対応しているところが印象的でした。障害者といえども、きっと幸せに感じているであろうと思います。

今回の実習では、いろいろと説明を受けながら見学できたので、たくさん学ぶことができました。さらなる障害者の知識を学びたいと思ったし、将来障害者とかがかわる機会もあるかもしれないし、そのような施設を訪れる機会もあるかもしれないので、その第一歩として有意義な実習となりました。

## 早期体験実習を終えて

歯学科2年 吉 原 翠

私たちは、新潟市北区にある知的障害者施設「太陽の村」を見学させていただきました。この施設には、特に自閉症を持つ障害者が多く入所しています。

まず、私たちは施設の職員の方から施設の概要や、入所者について説明を受けました。そこで、職員の方は「入所者は来てくるところに来ているわけではないから、ここに来てよかったと思ってもらえるサービスを提供できるよう気をつけている」と言っていました。施設を見学していくと、この言葉通りの職員の方の気遣いが施設の様々な所で見られました。

次に、作業訓練の様子を見学しました。ここには職員の方の手作りの道具が多くあり、入所者はそれらを使い、作業訓練をしていました。突然、一人が私たちに近づこうとして、職員の方に連れ戻されました。急なことで私たちは驚き、少し怖がってしまいました。その時、怖がる必要はないとインストラクターの先生に注意されてしまいました。理解しているつもりでしたが、慣れていないせいなのかその後も怖いと感じることがありました。

その後、入所者の生活棟を見学しました。そこには、1日のスケジュールを文字だけでなく、絵で表したものがありません。これは、自閉症の症状により、文字と絵のどちらの方がより情報を認識しやすいかが変わるからだそうです。また、太陽の村では職員が入所者に付き添って旅行に行くことがあるそうなのですが、そのときにそれぞれの入所者がほしい飲み物が表になっていました。これは、自閉症の方は物や習慣への執着が強く、こだわりが守れないとパニックを起こす可能性があるからだそうです。このような、職員の方の自閉症という症状に対しての入所者と職員の安全を守るための配慮が多く見られました。

最後に、男女に分かれて入所者と話し、ふれあ

う時間がありました。ここでは、入所者が積極的に私たちに近づき、話しかけてくれました。それまで、私は障害者と健常者とは違うのだと思い、どこか怖がっていました。歯科治療の際、暴れるので拘束具をつけられる障害者もいる、という話を2年前期の早期臨床実習で聞いたことがあるからです。しかし、私たちに話しかけ、作業訓練で作ったものを見せてくれる入所者を見ると、健常者と障害者の根本は同じであり、決して怖がる必要はないのではないかと感じてきました。

自閉症などを抱える障害者は、健常者と異なる部分を持っています。しかし、そうした違いを太陽の村の職員の方々のように理解することができれば、うまく付き合えるのではないかと感じました。こちらが怖がると相手も怖がってしまいますし、信頼を築くには相手を理解しなければならない、という点では健常者と同じとも言えるでしょう。

今回見学するまで、私は健常者と障害者がまったく異なるものだと思っていました。確かに違いますが、どこが違うのかということ、障害者にもそれぞれ差があるということを入念に入れ、闇雲に怖がらないようにしたいと思います。こうしたことについて考える機会を与えてくださり、先生方、そして太陽の村の職員と入所者の方々へ感謝しています。

## 早期臨床実習を終えて

口腔生命福祉学科2年 金内 琴子

私達は2年生の前期に、保健所・児童相談所・医療センター・特別養護老人ホームでの見学実習を行いました。専門科目として、歯科衛生士および社会福祉士に求められる知識を学ぶと同時に、医療や福祉の現場の雰囲気を実際に感じ取ることができ、非常に良い刺激となりました。

市保健所では、1歳6ヶ月健診の様子を見学させて頂き、実際に私達も親御さんとお子さんとふれあい、歯科保健活動の実態を肌で体験してきました。健診の様子を見ると、子供の身体的な面はもちろんのこと、歯の健康についても意識が高まってきているように感じました。ただ単に虫歯になったら治療すればいいという考えではなく、予防に力を入れている事が目に見えて実感できま

した。今後更に一般の方々においても、口腔の健康に対する意識が高まっていくのではないかと思います。

また、このような検診を頻繁に行う事は、子供の障害を早期に発見する事に繋がるだけでなく、両親にとっても、子育てに関する不安や悩みを相談できる絶好の機会となり、育児ノイローゼや虐待防止にも繋がるのではないかと感じました。

児童相談所では、施設の方による説明の後、施設の様子を見学させて頂きました。写真を用いて説明して下さったことによって、幼児に対する虐待の実態を目にする場面もあり、非常に衝撃を受けました。実際に虐待に遭っている子供たちを保護し、親子共にケアを行う事も大事ですが、それ以上に、虐待が起きないようにするために子育て支援制度の強化、また事前に予防・ケアを行う事が大事であるということを感じました。

医療センターでの見学実習では、病院歯科の実態や、病院歯科における歯科衛生士の業務について学ぶ事ができました。更に、歯科衛生士だけではなく、医療ソーシャルワーカーの業務についても学ぶことができ、非常に印象深い体験となりました。これまでは、“社会福祉士＝福祉の現場”という固定観念がありました。しかしこの見学実習を通して、歯科の知識を応用する事によって、歯科と医科とを繋ぐ役割として医療の現場でも大いに活躍できるのだということを実感できました。

また、特別養護老人ホームにおいては、社会福祉士の業務の実際を目にし、新しい発見が数多くありました。福祉の分野に関しては、これまであまり関心がなかったのですが、今回、福祉の現場の雰囲気や肌で体験したことで、様々な疑問や興味が生じ、自らの学習意欲の向上にも繋がったと思います。少子高齢化の問題とも関わっているのですが、施設の入所待ちの人数が1,000人という実態には非常に驚きました。このような施設の空きの問題や家族にかかる経済的負担の面から考えると、今後在宅介護ケアの質を上げていく必要があるのではないかと感じました。介護する側からだけでなく、介護される側の目線になって考えると、寝たきり状態になってしまっても、施設ではなく自宅で生活したいという人も多いのではないのでしょうか。そういった面から考えても、在宅ケアについてもっと見直しが必要であるように感じま

した。また、私たち自身も介護制度に関する正しい知識を身につけていく必要があると思います。

この施設見学実習全体を通して、医療や保健、福祉の現場でどのような活動が行われており、そこで歯科衛生士・社会福祉士がどのような役割を果たしているのかを自ら感じ取ることができました。私達の学科は、一見将来進む道が決まっているように見えて、実は様々な選択肢があり非常に可能性に富んだ学科であるという事を深く感じました。学習する内容は専門的ではありませんが、その知識をどの分野でどのように生かしていくかは自分次第であると思います。今回の実習で得たこと、感じたことを忘れず、今後もこのような実習や普段の学習を通して、自らの興味・関心を深め、より充実した実のある学習をしていきたいです。

## 早期臨床実習を終えて

口腔生命福祉学科2年 森田 順子

口腔生命福祉学科では、2年生になると、早期臨床実習という授業でさまざまな学外の施設に見学実習に行きます。この授業で見学した施設は、病院や保健所だけでなく、特別養護老人ホームや児童相談所、知的障害者施設といった福祉の施設もあります。これらの見学施設は、私は今まで行ったことがなく、見学に行くまではどのような施設なのか曖昧にしかイメージできませんでした。また、それまでは福祉施設と歯科とがどのような関係があるのかについてほとんど知りませんでした。しかし、実際にこれらの福祉施設を訪れて施設の職員の方のお話を聞くことによって、それぞれの施設がどのようなところなのかを具体的に知ることができ、福祉施設の現場と歯科治療とのかかわりについて知ることができ、とても勉強になりました。

このようにさまざまな学外の施設に見学をさせていただきましたが、そのなかで「白岩の里」という知的障害者施設のことをこれから書きたいと思います。「白岩の里」は、長岡市寺泊にあり、歩いて回るのに時間がかかるほどとても広い施設で、「白岩の里」という名前のとおり白い壁の家で統一されたきれいな施設です。

この施設の中は、児童部・成人部、重複更生部、

高齢期更生部、社会復帰部の部門に分かれています。この日、私が見学したのは、児童部・成人部と社会復帰部です。

まず、児童部・成人部がどのようなところかという、入所している多くの人は、重い知的障害をもっていて言葉によるコミュニケーションが困難であったり、行動上に強い障害をもっている人で、児童相談所からの紹介などによって入所しています。なので、入所者の人が行動上の障害のために周りにある物に体をぶつけてしまうことがあるので、室内の柱や壁などの角をなくすようにしていたり、ガラスを防弾ガラスにするなど、多くの工夫がありました。私は、内装や設備が入所者の人が生活しやすいように、すみずみまで設備が整っていてすごいと感じました。

ほかに気づいたことは、重い障害のある人にとっては、歯磨きをすることが難しいということです。この話は、働いている職員の方が話してくれたのですが、私は今まで障害を持つ人が歯を磨くのが大変だということを知らなかったため、障害を持つ人のための歯科保健指導についてこれから勉強しなければいけないと感じました。

次に、社会復帰部について説明します。この部門の入所者の人は、比較的軽度の知的障害をもっていて社会的な自立を目標としている人が入所しています。今回の見学では、入所者の人が金具を組み立てる仕事をしているのを見学させていただきました。同じ施設の中でも二つの部門の見学をさせてもらい、私は入所者ひとりひとりの障害の強さが違っているのが分かり、「白岩の里」は一人ひとりのニーズにあわせた援助を行っているのだと感じました。また、「白岩の里」の職員の方が入所者の人と明るく接している様子を見て、毎日の仕事や運営の経済的な苦勞などがあっても、明るく仕事をしていてすばらしいと感じました。

ほかにも「白岩の里」の見学で、今まで知らなかった障害者施設についてのことなど多くのことを学ぶことができました。また、これからの学校の授業では、歯科の勉強だけでなく福祉の勉強も始まるので、この見学によって自分の頭の中に実際の施設や入所者の人のイメージを作ることができたのがとても良い経験になりました。この経験を生かしてこれからの学習につなげていきたいと思います。